

2026

35th
Anniversary



A C C
ALTO CAMPO COMPANY
YOKOHAMA



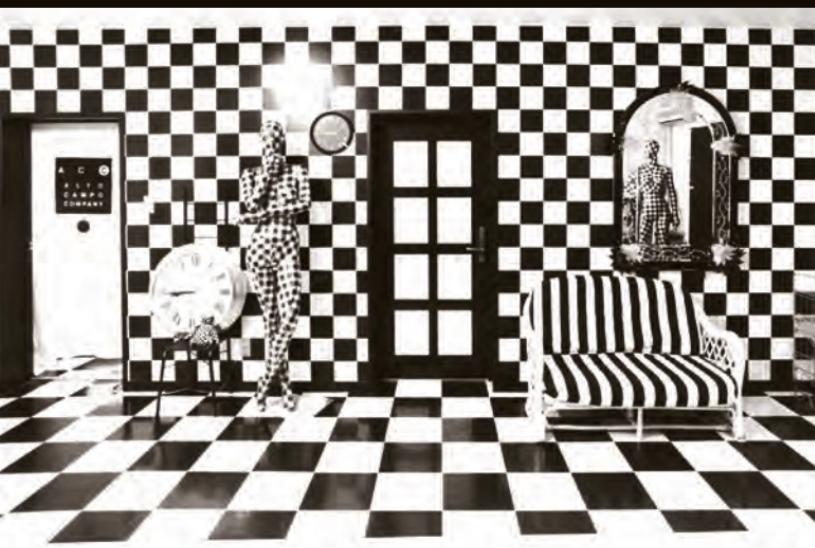
website

ALTO CAMPO COMPANY



35th Anniversary

A C C • ALTO CAMPO COMPANY



ALTO CAMPO COMPANYの1992年当時のデザインオフィス。

イタリアミラノで生まれたデザイナープロジェクトは、シンプルでミニマルなファッションとインテリアからのスタートでした。空間とグラフィックとディスプレイ。すべてのデザインをトータルで描くデザイナーたちのサロンでした。

2026 New Year Message

MIDUKI ×
ALTO CAMPO COMPANY

— Pouring Art の精神に魅了されて —

コントロールの放棄と偶然性の受容。

筆を持たず、絵の具はキャンバス上で色は流れ、混ざり合い、
流れる自然の物理法則にすべてを委ねる。

完成された一枚よりも、
予測できない"プロセス"そのものに価値を見出すアート。

計算を超える直感に従い、内なる創造性を解き放つ。
それは、心を整えるセラピーのような時間。

日本の陶芸と植物のエッセンスを重ねた
静かで力強いヴィジュアルとともに、
MIDUKIのアートは新たな表現へ。

2026年のカレンダーは
Pouring Artist MIDUKIとのコラボレーションデザイン。

ALTO CAMPO COMPANY デザイナーチームは、
MIDUKIの世界観を、さまざまな舞台へと
解き放っていきます。

小寒から大寒へ

寒さがいちばん深まるこの頃は、自然も人も静かに力を蓄える時間。やがて春が来ることを信じて、見えないところで命が息づいています。この時期に汲んだ「大寒の水」は清らかで強い生命の力を宿すといわれます。



S	M	T	W	T	F	S
				1 元日	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11 成人の日	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

J a n u a r y





F e b r u a r y

立春を過ぎ、春のはじまりを告げる雨水

一年で最も寒さの厳しい時、かすかな春の陽気が芽生え、眠っていた生命が静かに目覚め、空から降るものは雪から雨へと変わり、大地は潤いを取り戻し、草木は小さな芽を宿す。新たな命の巡りが始まるごとを願い、人々はこの時節に春への希望を託してきました。

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

建国記念の日

天皇誕生日

自然界の活動を再開する啓蟄から春分へ

冬ごもりしていた虫たちが、やわらかな土を押しのけそっと春の気配に触れる頃。静寂の奥から新しい生命の息吹が立ちのぼり春分を境に、昼と夜は等しく手を取り合い、やがて光は優しく世界を満たしていく。春のはじまりを告げます。

3

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

春分の日

March





April

清明から穀雨へ — 自然界の移ろいに心を澄ませて

天地に満ちる生命の息吹に、静かに感謝を捧げる季節は、万物は清らかに、そして明るく目覚めています。自然と人が寄り添い、外の景色の清らかさに呼応するよう、自らの心もまた澄む、そんな想いをそっと胸に抱く、春のひとときです。

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

昭和の日

4

鮮やかな新緑を感じる、立夏から小満へ

薰風が若葉を揺らし、空と大地のあいだを澄んだ光が行き交う季節。立夏から小満へと向かう頃、万物は静かに、しかし確かに力を蓄え、芽吹いた命は天と地に満ちていきます。今ここにある恵みに感謝の心を育む——そんな、満ち足りていく時間です。



M a y





J u n e

芽吹いた命の芒種から夏至へ

命は育ち、光は極まり、世界は最も躍動する季節を迎える。梅雨の静かな潤いと太陽が頂点に達する夏至の光。外へと広がる生命の力を感じながら、陰陽の調和のもと、心身を整え、内なるエネルギーを養い直す季節です。

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

夏を感じる小暑と大暑

梅雨が明け、陽射しは日に日に強さを増す時期。夏至を過ぎ、日足は静かに短くなりながらも気温が高まり、草木は勢いよく茂り、蝉の声が空に満ち、自然の生命力が最も輝く夏の盛り。その力強さに身を委ね、季節の息吹を愛でる時節です。

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
海の日						
26	27	28	29	30	31	

J u l y





A
u
g
u
s
t

静かに訪れる立秋と処暑

一年で最も暑さが極まる只中に、静かに訪れる立秋と処暑。燃えるような陽射しの下にありながら、この日を境に人は「盛夏」ではなく「残暑」と呼び、やがて訪れる涼を心に思い描き始めます。

S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

季節の移ろいの白露から秋分へ

草花に宿る一滴の露のきらめき、静かに深まる夜の気配。季節の微かな変化に心を澄ませるこの頃は、日本の「わび・さび」に通じる美意識が息づく時。秋分は、昼と夜が等しくなる節目。光と闇、陰と陽が調和し、世界が静かなバランスを取り戻します。



S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5		
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
敬老の日 国民の休日 秋分の日						
27	28	29	30			

September



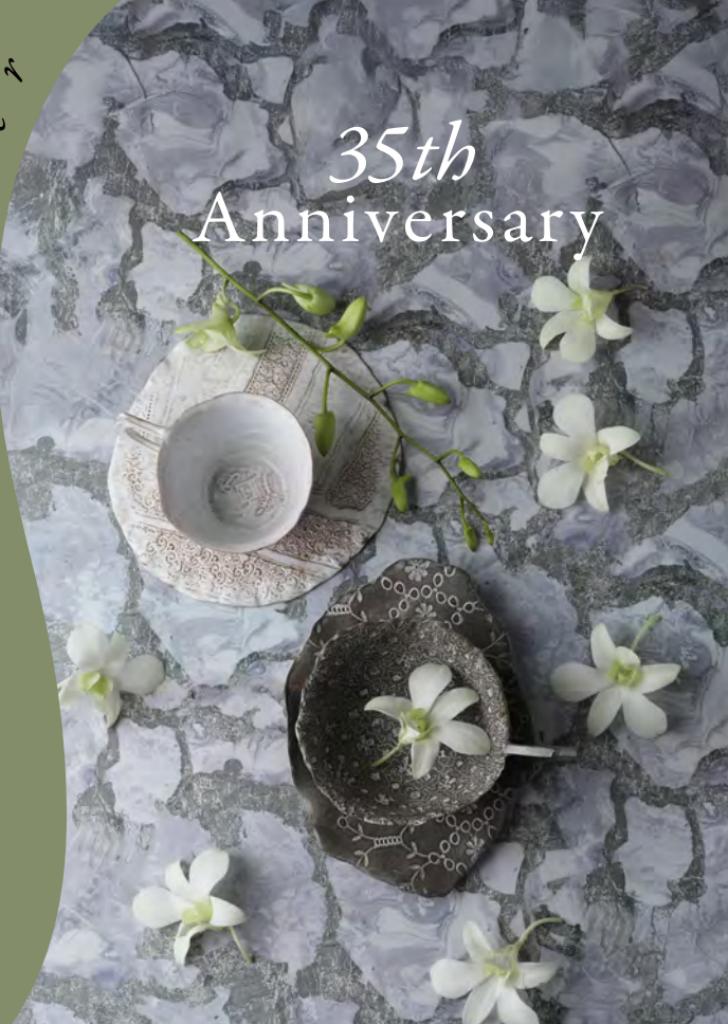
空気が澄み渡る寒露から霜降

空気が澄み、寒露から霜降へと移ろうこの頃は、冬支度を始める静かな節目。澄み切った秋空に浮かぶ月や、海を渡る冬鳥の姿に、季節の深まりを感じます。自然の小さな変化に美を見出し、心身を整えながら、秋の終わりと冬の訪れを迎える時期です。



O c t o b e r

35th
Anniversary





November

冬のはじまりと深まりの立冬、小雪

冬は、自然が静けさへと向かい、生命が内に力を蓄える季節。立冬は冬の扉が開く時、陽気を守り、心身の消耗を慎むことが大切に。小雪には、やがて訪れる雪に備え、暮らしも体も冬支度を始める時期です。

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

文化の日

勤労感謝の日

12月の二十四節気 大雪と冬至

雪が山から平野へと広がり、自然界の営みは静かに内へと収束していきます。動物は冬ごもりし、人は備えを整え、厳しさを受け入れながら季節と調和して生きる時。冬至は一年で最も夜が長い「極まり」の日であり、同時に光が再び増し始める「再生」の兆しを感じます。

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

D e c e m b e r

